



# いしわら

10月号  
令和3年9月30日  
調布市立石原小学校  
校長 江原 幸一

<http://www.chofu-schools.jp/isiwara-sho/>

## 努力の方向性

副校長 三瓶 邦吉

少し前のことになりますが、夏休み中に行われた東京オリンピック・パラリンピック大会のことについてです。出場された選手の方々の活躍を多くの国民がマスメディアを通して知り、感動を味わったことと思います。その中で、私が特に印象に残ったものがバスケットボール女子日本代表です。今大会でのバスケットボールチームの活躍を知り、本校のミニバスケットボールに参加をしている子どもたちのことが頭に浮かんできました。どんなにか喜んでいないかと推察しました。

本校には、「ミニバス」とのネーミングのミニバスケットクラブがあります。週2回放課後、定期的に練習を行っています。また、試合が開催される前には、随時朝練習を実施しています。3年生から6年生までの男女総勢27名が山本コーチの指導のもと練習に励んでいます。練習では、学校生活とは違った真剣な姿を見せる子どもや軽快な動きを見せる子どもが大勢います。

以前、試合で勝利し、全校朝会で表彰した時には子どもたちの喜びと誇りが溢れていて、嬉しくなったことを思い出します。子どもたちにとって練習した成果が表れ、結果に結びついた時の感激は大きいものと思います。

オリンピックや世界大会でバスケットボールチームの成績は、十分な成果を得られたとは言い難いものがありました。はっきり言えば、世界の壁が立ちはだかっていました。テクニックの

面もあるかとは思いますが、どちらかというところがあります。日本にとって、世界の高い壁が立ちはだかっていましたが、今回、届かなかった世界に足を踏み入れることができたのです。バスケットボール初のメダル（銀）獲得です。バスケットボール界にとっては画期的なことです。バスケットボール女子日本代表を率いたトム・ホーバスヘッドコーチは、当チームのことを「スーパースターはいないけど、スーパーチーム」と称えています。未来に夢を与えたことは間違いありません。特に、少年・少女への影響は大きいものがあると思います。

その意味で、ミニバスケットクラブの子どもたちにも一層の励みになってほしいと願っています。また、本校にはラグビークラブを結成し、緊急事態宣言下では練習はできませんが、解除時には、週3回の朝練習に自主的に励んでいる30名の子どもたち、さらには、ドッジビークラブに参加している49名の子どもたちも、チームや自分の目標に向かって挑戦しています。

バスケットボール女子日本代表チームが教えてくれたこと、それは、①目標をもつこと。②基礎的練習を継続し力をつけること。③自分に自信をもつこと。④チームで補い合いチーム力を高めること。という努力の方向性であると考えます。各々の子どもたちが挑戦する分野で、自信をつけ、勇んで励んでほしいと思います。